

より安全な世界へ向けて

このニュースレターは、デュポンが創業以来200年にわたり蓄積した安全ノウハウの一部を紹介するものです。「より安全な世界へ向けて」企業経営のご参考にして頂ければ幸いです。

職場の安全は、企業の社会的責任である

企業の社会的責任（CSR）に強い関心を持つ世界中の企業経営者多くは、環境や社会貢献だけではなくガバナンスや説明責任など経営の誠実さと透明性の向上とその維持・確保に取り組んでいることは周知の通りです。どのような社会的責任を果たすか、は経営者の価値観と方針選択にかかっています。

一方、職場の安全は事業を遂行する上で選択可能なオプションではなく、事業の存立基盤そのものです。また、安全の確保は市民生活を営む上で選択可能なオプションでもなく、人間と社会にとって必要な価値であるとの強い信念が必要です。

安全は創業当初からデュポンの企業文化の一部であり、社員の個々人が自分の安全に責任を持つだけでなく、同僚の安全についても注意を払っておりました。この考え方は「全てのケガは防ぐことができる」との信念と共に会社の基本原則となっています。その考え方に基づきデュポンは、人間行動に焦点を当てた安全文化の定着、トップ経営陣の「感じてもらえるリーダーシップ（Felt Leadership）」の発揮、手法の確立、個々人の高い職務規律の定着に努めておりますと共に、外部に対し安全に関するさまざまなサービスを提供しております。

ビジョン、公約、そして安全原則

企業経営者は、明文化している、していないに関わらずビジョンを持っている。経営者が「こうありたい」と望むものがビジョンである。

デュポンのビジョンで安全に関係する部分に「私たちにとって会社の原則は絶対です。私たちは自然と生物を尊重、安全に働き、他人や仲間を思いやり、毎日、曇りのない良心と精神の高揚を感じながら、仕事を終え、家路に向かいます」がある。このビジョンに基づき、公約、そして安全10原則（以下にその一部例示）が組織に徹底されており、トップ経営陣と全社員の日常の職務規律を規定している。

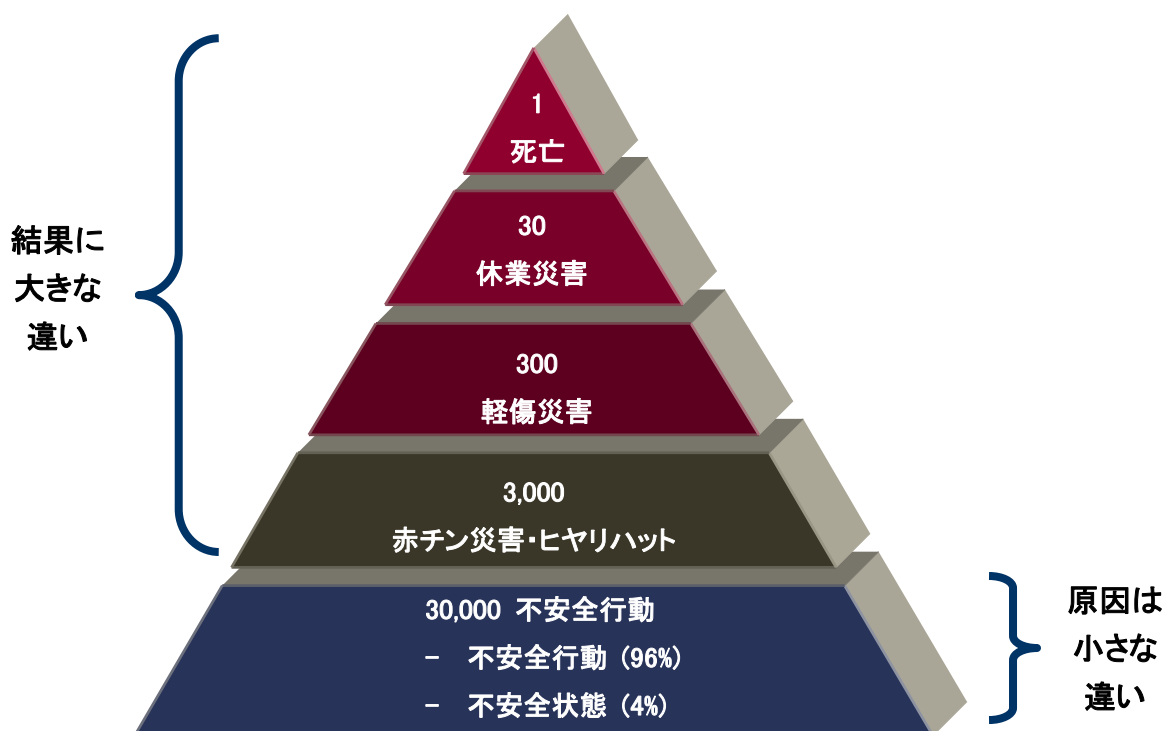
例えば「全てのケガ及び職業病は防ぐことができる」の原則は、壁に貼り表示するスローガンではない。ヒヤリハットにつながる「10万回に1回は仕方がない。時には止むを得ないこともある。」などの考え方を例外として認めないことを意味する。また、「マネジメントはケガや職業病防止に責任がある」の原則も経営トップを含むライン管理者が担当者任せにするような例外を認めないことを意味し、その徹底が求められる。このような安全への取り組みが職務規律を高め、優良操業への道であるとの信念を持って取り組んでいる。

災害ピラミッド

前号では「ケガ・事故率と組織文化の関係」を紹介した。今号では「重大災害の頻度と不安全行動の頻度の関係」を次ページに紹介する。

デュポンは、ほとんどの設備災害、人身災害は不安全行動によって引き起こされ、不安全状態や機械だけが原因になることはない、と考えている。ケガの原因の96%は不安全行動によるもので、不安全状態によるものが残り4%である。職場の安全確保のためには、96%の不安全行動を黙認する職場慣行の是正が必要である。特に知識も経験もある熟練者による標準作業手順を外れたショートカット、以前も大丈夫だったので今回もの軽視など不安全行動がある。

災害ピラミッド



上の図に示すように、重大災害、軽傷災害、赤チン災害・ヒヤリハット間の結果の違いは大きい。しかしながら、その原因の違いは小さく、標準作業手順、ルール軽視などを含む96%の不安全行動、さらには安全に対する意識にある。一方、現場での4S・5S運動は、主として不安全状態の是正に対する取り組みであると分類される。

職場の安全は担当部署任せで確保できるものではない。経営トップを含むライン管理者の役割は、「全てのケガは防ぐことができる」の信念のもとに Felt Leadership の発揮にあると言っても過言ではない。

不安全行動の撲滅を通じたワールドクラスの職場安全の達成には、経営トップを含むライン管理者の不安全行動を黙認しない高い意識と自ら率先垂範する行動が必要である。特に経営陣のビジネス観、安全に対する価値観、錯綜する事業判断の中での安全の優先度が大きく関係する。もし、経営陣による安全に対する目に見える意欲と関与が不十分で、従業員が安全は組織の基本価値であると信じていないならば、各従業員は自分自身もしくは他の従業員にとっても安全が重要であるとは考えないものである。

デュポンの安全サービス全般もしくは、安全文化構築プロセス、安全・リスク管理、緊急時対応、STOP™ (不安全行動是正) プログラム等についてご質問、ご要望がございましたら、お問い合わせ下さい。

デュポン (株) セーフティリソース
(お問い合わせ先: 村上、飯浜、吉田、水野、大西)
TEL:03-5521-8509、 FAX:03-5521-2344